

コミュニケーション能力の育成――

身体を使って伝えよう

大口西小

大口西小学校（若田和敬校長）で12月5日、文化庁の「次代を担う子ども文化芸術体験事業」として「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」が行われました。

講師を務めたのは、ドラマケーション普及センター（尾田和夫センター長）（東京都）ドラマケーションは「ドラマ」と「コミュニケーション」の合言葉で、「いつでも・どこでも・誰でも・楽しく」をモットーに、遊びを取り入れ、身体を使つて心で感じることで自分や相手に気付き、周りや社会との関係を肯定的に受け入れができるよう工夫されたプログラムです。2回目となつた5年生の授業では、3人がそれぞれの手の平をつけて離さないように動くことや、



身体を使ってコミュニケーションを取る方法を学んだ大口西小児童

20人ほどで手をつなぎ、ついで手の下をくぐつたりまたいだりしてねじれた状態を元に戻す「人間知恵の輪」。自分の思つた言葉を身体で表現して友達に伝えるなど、身體を使ってコミュニケーションが行われました。

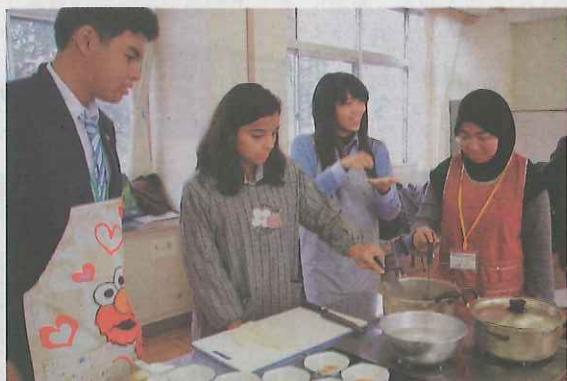
シヨンを取る体験をしました。「た」や「し」を言葉の頭に、自分の思う言葉を身体で表現する体験では、最初は戸惑い気味だった子どもたちも、身を乗り出して理解しようと、解きほぐしていました。

「体で表現するのは面白かった」「人間知恵の輪は、ぐちゃぐちゃになつても元に戻れて不思議楽しかった」と、五感を刺激しながらのドラマケーションで、心の緊張を解きほぐしていました。

外国人留学生が 和食体験 江南高校

日本食の調理に挑戦する留学生たち

片言の日本語と英語で楽しんだ会食の様子



愛知県立江南高校（森崎忠彦校長）に12月10日、アジア大洋州地域から11人の短期留学生と引率教諭が来校。授業を参観し、調理実習、体育の授業体験、弓道部、筝曲部に体験参加して生徒らと交流しました。公益財団法人AFS日本協会主管、外務省の青少年交流（平ズナ強化プロジェクト）

として来日した留学生らは、東北地方を訪れて被災地の現状や被災者と交流し、その後、ホームステイをしながら同校で日本文化や歴史に触れる体験や交流をしました。

同校PTA役員らの協力で行った調理実習では、東ティモール、ベトナム、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン、東ティモール、ベトナムと出身国はさまざま、雪見寿司、豆大好き」と感想もさまで、白玉粉を丸めてゆでた白玉団子、豆腐入りのお吸物、いなり寿司、刺し

信義さん。愛知県文連美術展などで入賞し昨年、

皆大好い